

巻 頭 言

学術誌の価値 — 紀要創刊にあたって

仙台青葉学院短期大学学長
藤 村 重 文

この度仙台青葉学院短期大学の学術誌である紀要が創刊されたことを大変喜ばしく思います。

本学は、「豊かな人間性を育てる教養教育」「良好な人間関係を築く対人教育」「地域社会に貢献し得る実学教育」を三本柱にした建学精神のもとに平成21年4月開学し、現在看護学科およびキャリアデザイン学科の学生はそれぞれ第一期生として勉学に励んでいるところです。

大学や短期大学等の高等教育機関は、中等教育を経た者が知識・倫理・技術などをさらに深く学び、その成果を社会に還元することを助けるというひとつの大きな達成目的を有しています。その時代の社会に貢献できる人材を育成し輩出するためには教育機関自身にも質向上のための日常努力が必要なことは言うまでもありませんが、創立間もない時期における紀要発刊は、教育のほかのもうひとつの重要な使命である研究の推進の証しであり、本学の今後の発展を予感させるものです。

看護学やキャリアデザイン学の分野での研究テーマについて考えると、無限といっても過言ではないほどの多種多様性があることが想定されます。それらのなかから研究者自身が価値ある遂行可能なものを見出すことが必要です。

筆者の専門分野である医学では近年、研究や診療において EBM（Evidence-Based Medicine）が重視されています。実際の診療では EBM には医療者の裁量と患者の自己決定が加味されなければなりません。学術研究においては研究結果の根拠となる資料が正確であること、すなわち成果に明確な証拠（エビデンス）があることで論文に対して信頼性と価値があると評価がなされます。

原著論文におけるエビデンスレベルも I から VI まで分類されて評価されます。このことは医学に限らずどの分野にも基本的には当てはまると考えます。学術研究を行ううえで最も大切なことは、ひとつに正確な研究方法の設定と正確な成績の読み取りですが、それに続く結果に基づく考察には研究者の独自の理論や思考が入ってしかるべきでしょう。総説や研究報告や症例報告などにおいても論旨に客観性が必要なことは言うまでもありません。

この度の創刊号に続く次の紀要においても質の高い論文が多く投稿され掲載されることを心から望むものです。